

試される医療の原点，今こそNHO理念の再認識を

国立病院機構臨床研究センター・臨床研究部協議会 前会長

国立病院機構相模原病院 前臨床研究センター長

谷口正実

国立病院機構臨床研究センター・臨床研究部協議会 副会長

国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター長

江崎泰斗

IRYO Vol.74 No. 1 (3) 2020

皆様には健やかに2020年の新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。昨年も各地で大きな自然災害があり、被災された多くの方々や施設にお見舞い申し上げます。

NHOの理念（図）には医療人としての姿勢や医療のあるべき姿が的確に表現されています。内容は①健全な経営、②良質な医療、③質の高い臨床研究、④教育研修の推進（＝人材育成）の4つに分けることができます。昨今、NHO施設でも経営に関して厳しい戦いが強いられていますが、①の健全な経営を意識した行動なくしてNHOの発展は望めません。しかしそれだけでは将来が期待しづらいのも事実です。②良質な医療を意識し実行し続けることが使命であり、それには③臨床研究と④人材育成が重要となります。質の高い臨床研究を遂行し継続することが質の高い人材育成につながり、良質な医療として必ず国民へ還元されます。

NHOには、国立病院時代からの国民のための医療、困っている患者や難治疾患を救うという意識が受けつがれています。その具体例が19分野の政策医療であり、NHOにおける臨床研究分野のルーツでもあります。NHO施設が臨床研究を重視した施設であることを再認識すべきと考えます。

NHOにおいても研究費の獲得が困難な時代となりました。臨床研究をリードする臨床研究センター/部の方々にも、ぜひ理念①を意識した研究の実行をお願いします。その具体案の一つとして収益につ

ながる受託検査があります。2018年のNHO施設でのアンケート調査では、約30%の施設が外部からの特殊検査業務を受託しており、その内容は遺伝子（腫瘍関連、先天疾患）解析、疾患バイオマーカー、抗体/抗原などでした。実際に臨床で重要となる保険外検査を受託し収益化している施設もありました。これらの情報を共有化し、NHO研究ネットワークを診療のネットワークとしても機能拡大させることができると考えます。

NHOのスケールメリットを生かした治験やネットワーク研究に加え、ブレイクスルーをもたらす先駆的な臨床研究も極めて重要です。NHOの臨床研究には日本を代表する国際的な臨床研究が多々あり、PubMedで検索すると、10年前の300程度から2018年では1500以上の論文掲載となっています。多くは患者さんへ還元され良質な医療提供につながる研究内容です。高い志を持った臨床研究家が多くNHOから生まれ、継続して活動することを祈念しています。さらに有能な研究者、指導者が効率よく、よい環境で仕事ができる体制作り（事務的支援含め）が求められます。

NHO全体として、臨床研究とその発展がNHOの将来を担うことをご理解いただければ幸いです。

末筆となりましたが、NHOおよびその臨床研究の発展を祈念し、さらには皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

私たち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます



図 NHOの理念